

令和7年1月28日 発表

# 中小企業月次景況調査結果

## 令和6年12月分

～令和6年12月 データから見た業界の動き～

令和7年1月28日 発表

製造業・非製造業で収益状況に大きな差  
ガソリン補助金縮小による燃料価格上昇が収益回復の足かせ



## 山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和7年1月28日 発表

## 製造業・非製造業で収益状況に大きな差 ガソリン補助金縮小による燃料価格上昇が収益回復の足かせ

### ■ 概 況

12月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 ±0ポイント（前年同月比 4ポイント↑）

収益状況 ▲16ポイント（前年同月比 10ポイント↓）

景況感 ▲16ポイント（前年同月比 ±0ポイント）

となり売上高は前年同月を上回ったが、収益状況が下回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲15ポイント（前年同月比 5ポイント↑）

収益状況 ▲15ポイント（前年同月比 20ポイント↑）

景況感 ▲20ポイント（前年同月比 10ポイント↑）となった。

「ギフト関連商品の値上げを決定した（水産物加工業）」、「前年同月と比べ製品販売価格を約3%値上げした（金属製品製造業）」など価格転嫁の状況に一定程度の進展が窺え、収益状況D.I値が大きく上昇した（+20ポイント）。

また、「基礎工事に必要な資材の出荷状況が好調（骨材・石工品等製造業）」との報告があった一方、「見積り依頼がないため年明け以降の景況感の回復も見込めない（木材・木製品製造業）」、「地域によって工事量に差がある（骨材・石工品等製造業）」など、受注量については業種・地域によって差がある。

一方、非製造業では…

売上高 +10ポイント（前年同月比 3ポイント↑）

収益状況 ▲17ポイント（前年同月比 30ポイント↓）

景況感 ▲13ポイント（前年同月比 6ポイント↓）となった。

「忘年会などの年末需要がコロナ禍以前の状況に戻りつつある（宿泊業）」を例に人流増加の好影響を受けた業界がある一方、「歳末セールを実施するなどして商店街への客足を増やす努力をしているが、個店の経営状況は厳しい（商店街）」「前年同月と比べ販売価格が50%ほど上昇し、国内・海外ともに売上が低調（ジュエリー製品卸売業）」など、年末商戦を迎えたものの物価高騰による消費者の購買意欲低下によって、小売・卸売業を中心に売上確保に苦慮する報告もあり、売上D.I値の上昇(+3ポイント)が非製造業全体の傾向とは言えない。

また建設業では、「新規案件が少なく、大手企業を取引先に持つ会員とそうでない会員とで仕事量に差がある（鉄骨・鉄筋工事業）」と事業者によって仕事量が二極化しており、「ゼネコンからの見積もり依頼もあるが、職人不足で断るケースが多い（型枠工事業）」と人手不足が売上回復の足かせとなっている。

「価格転嫁が進んでいない（型枠工事業）」を例に収益確保に苦慮する事業者の報告があり収益状況D.I値は30ポイント低下した。また「年明けにはレギュラーガソリン価格が1ℓ=180円～185円程度になる予測（ガソリンスタンド）」と燃料油価格激変緩和対策補助金のさらなる縮小が予定されており、「燃料価格高騰によって収益確保が困難（道路貨物運送業）」「燃料価格値上げの影響を注視している（道路旅客運送業）」など特に運送業界では動向を注視している。

その他、「組合員の減少、準備工程（撚糸・染色・整経など）に携わる事業者の廃業によって産地存続の危機（織物業）」「高齢化や収益状況悪化を理由として脱退する組合員が増加（美容業）」を例に経営状況悪化や後継者不在などを理由とした廃業が増えている。また「組合員の脱退が増える一方で加入者はほぼいない（電気工事業）」と製造業・非製造業ともに業界の存続・発展に危機感を抱く事業者の声が聞かれた中で、「事業を続けていくためには法改正も含めて経営環境の変化に柔軟に対応する必要がある（廃棄物処理業）」との報告もあった。

中央会では、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化しています、お気軽にご相談ください。

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	おせち関連製品の需要が増加したものの、売上は前年同月比99%となった。 原材料価格の上昇分を転嫁するためギフト関連商品の値上げを決定した。
食料品 (洋菓子製造業)	原材料（特にチョコレートやカカオ）価格が高止まりしているため製品販売価格の改定を検討している。
食料品 (パン・菓子製造業)	末端小売価格(消費者に販売される価格)は3%ほど上昇しているが、光熱費・運搬費の上昇分を十分に転嫁できていない。輸入ワイン需要の高まりによって国産ワインの売れ行きが低迷している。
繊維・同製品 (織物)	組合員の減少に加えて、準備工程（撚糸・染色・整経など）に携わる事業者の廃業も増えており、産地内完結の小ロット生産が主な産地にとって危機的状況である。
繊維・同製品 (織物)	機屋の減少のみならず、撚糸・染色・整経等に携わる事業者の廃業が増えており産地存続の危機である。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上は▲57%、収益状況は▲30%となった。見積り依頼がないため年明け以降の景況感回復も見込めない。
窯業・土石 (砂利)	前年同月と比べ売上は▲10%、収益状況は▲15%となった。地域によって工事量に差があるが、リニア関連工事の進展による骨材需要量の増加を期待している。
窯業・土石 (山碎石)	前年同月と比べ売上は▲6%、収益状況は▲7%となった。基礎工事に必要な資材の出荷状況が好調であり、年末に向けてさらなる需要増加が予測される。 ※集計の都合上、11月末の数値・業況
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁した（前年同月比べ約3%上昇）。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	前年同月と比べ売上は▲25%、収益状況は▲27%となった。業界全体で受注量の低迷が続いており年明け以降は回復するとの話もあるが、物価高騰による厳しい経営環境が続く中で日米関係への懸念もあり、先行きを不安視している。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲10%となった。半導体業界の景況感が回復傾向にあるようだが、2次・3次下請けまで波及していない。 医療機器関連はリピート品の受注量を確保できているが、先行きは不透明である。

● 非製造業

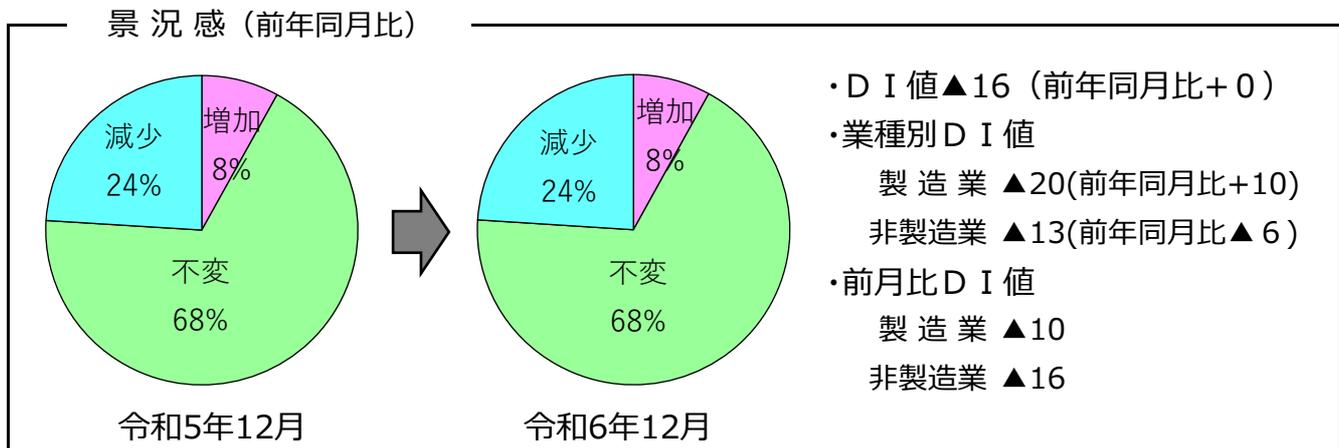
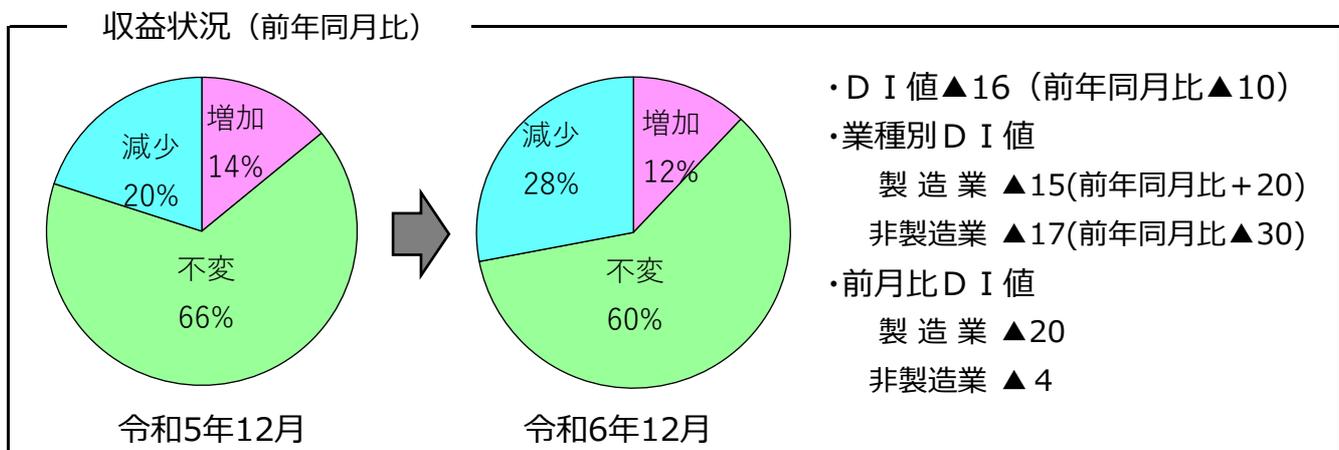
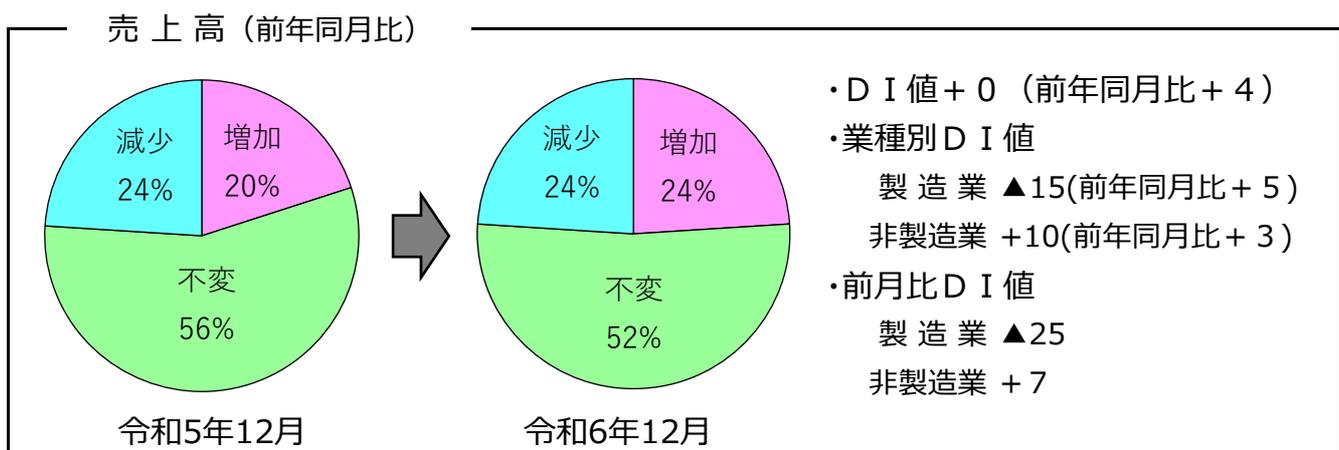
卸売 (ジュエリー)	金・地金価格の高止まりに加えて為替変動も激しく、前年同月と比べ商品販売価格が50%ほど上昇しているため、国内・海外販売ともに売上が低調である。
小売 (青果)	前年同月と比べ売上は12%増加したが収益状況は▲10%となった。天候不順によって冬物の野菜・果実の供給量が少ない。
小売 (電気機械器具小売業)	省エネ家電の買換え需要はあるものの、物価高騰によって消費者の購買意欲が低下しており、前年同月と比べ売上は▲6%となった。
小売 (事務機小売業)	ペーパーレス化の影響によってコピー用紙や文房具の売れ行きが低迷している。
小売 (ガソリン)	燃料油激変緩和対策事業の補助金縮小によって卸売価格が大幅に上昇した。新年明けにはレギュラーガソリン価格が1ℓ=180円～185円程度になる予測であり、業界では店頭でポスターを掲示するなどして消費者からの理解を得るために努力を続けている。

商店街	大月駅周辺で有料駐車場が乱立しており、組合が管理する駐車場の売上が減少している。歳末セールの実施など、組合では商店街への客足を増やす努力をしているが、組合員個店の経営状況は厳しい。大月駅利用者や周辺ホテルへ宿泊する外国人観光客などを商店街にどのように誘導するかが大きな課題である。
宿泊業	12月～2月は閑散期であり甲府市内ではイベント等がほぼ開催されないため観光客の増加も見込めないことから、設備改修のために休業する施設もある。
宿泊業	企業・団体の忘年会などの年末需要がコロナ禍以前の状況に戻つつある。観光・宿泊業界全体で人手不足が深刻であり、新卒・中途ともに応募がほぼない。
美容業	高齢化や収益状況悪化を理由として脱退する組合員が増えている。
産業廃棄物処理	「プラ新法」や「再資源化事業等高度化法」などの法改正が進む中、事業を続けていくためには経営環境の変化に柔軟に対応する必要がある。業界では、今後さらに事業者ごとの格差が拡大することを予測している。
一般廃棄物処理	一般廃棄物処理センターの集約化に伴い、組合の現業（契約事業）の継続を脅かす新業態事業者の参入をうかがわせる動向がある。
警備業	工事現場における交通誘導警備が堅調であり、前年同月と比べ売上は1%増加した。依然として警備員不足が深刻である。
自動車整備業	車検台数について、普通車14,286台（前年同月比▲98台）、軽自動車11,774台（前年同月比▲32台）※集計の都合上、11月末数値 「定期点検整備」は法律で義務付けられています。車検時のみならず1年点検も確実に実施しましょう。
建設業（総合）	12月の県内公共工事について、前年同月に比べ件数は▲7.6%、請負金額は▲32.9%となった。12月末累計での件数は▲0.8%となり、請負金額は▲0.1%となった。
建設業（型枠）	仕事量は確保できておりゼネコンからの見積もり依頼もあるが、職人不足で断るケースが多く、価格転嫁も進んでいない。若い世代は「給料の高さ＋休日の多さ」を求めるが、経営状況が改善しない限り賃上・休日確保ともに困難である。
建設業（鉄構）	前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲5%となった。新規案件が少なく、大手企業を取引先に持つ会員とそうでない会員とで仕事量に差がある。年度末まで状況は変わらない予測である。
設備工事（電気工事）	組合員の脱退が増える一方で加入者はほぼいないため、対策を検討する必要がある。
運輸（タクシー）	燃料価格値上げの影響を注視している。
運輸（バス）	退職者が増えているが新規採用が難しく人手不足が深刻である。
運輸（トラック）	天候不順の影響によって野菜・果物の出荷量が少なく、燃料価格高騰によって収益確保が困難な状況が続いている。年末の忙しさも無く、業界全体で景況感の低迷を感じる。

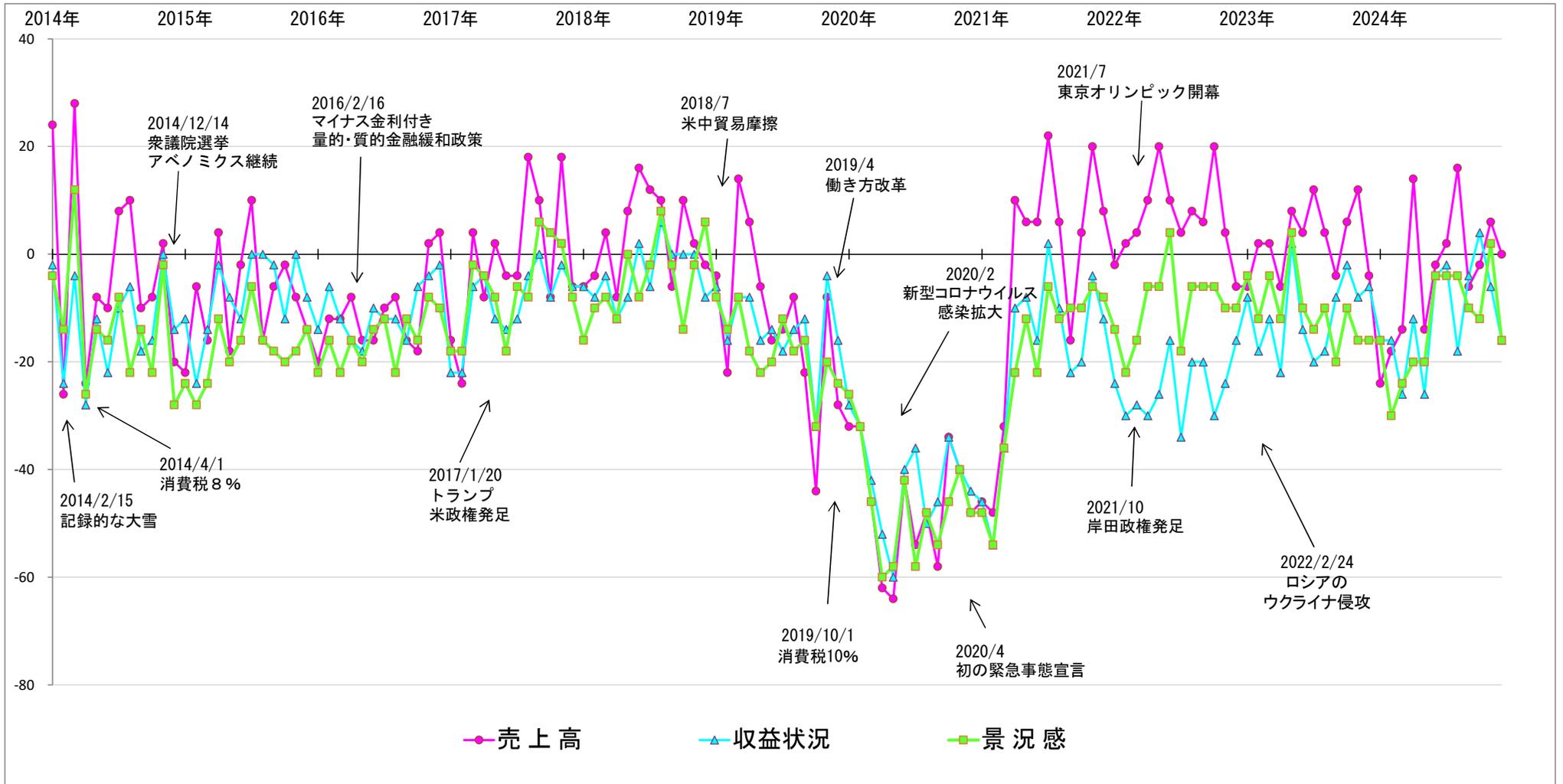
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2023年12月	2024年11月	2024年12月	2023年12月	2024年11月	2024年12月	2023年12月	2024年11月	2024年12月
売上高	▲ 20	10	▲ 15	7	3	10	▲ 4	6	0
収益状況	▲ 35	5	▲ 15	13	▲ 13	▲ 17	▲ 6	▲ 6	▲ 16
景況感	▲ 30	▲ 10	▲ 20	▲ 7	3	▲ 13	▲ 16	▲ 2	▲ 16

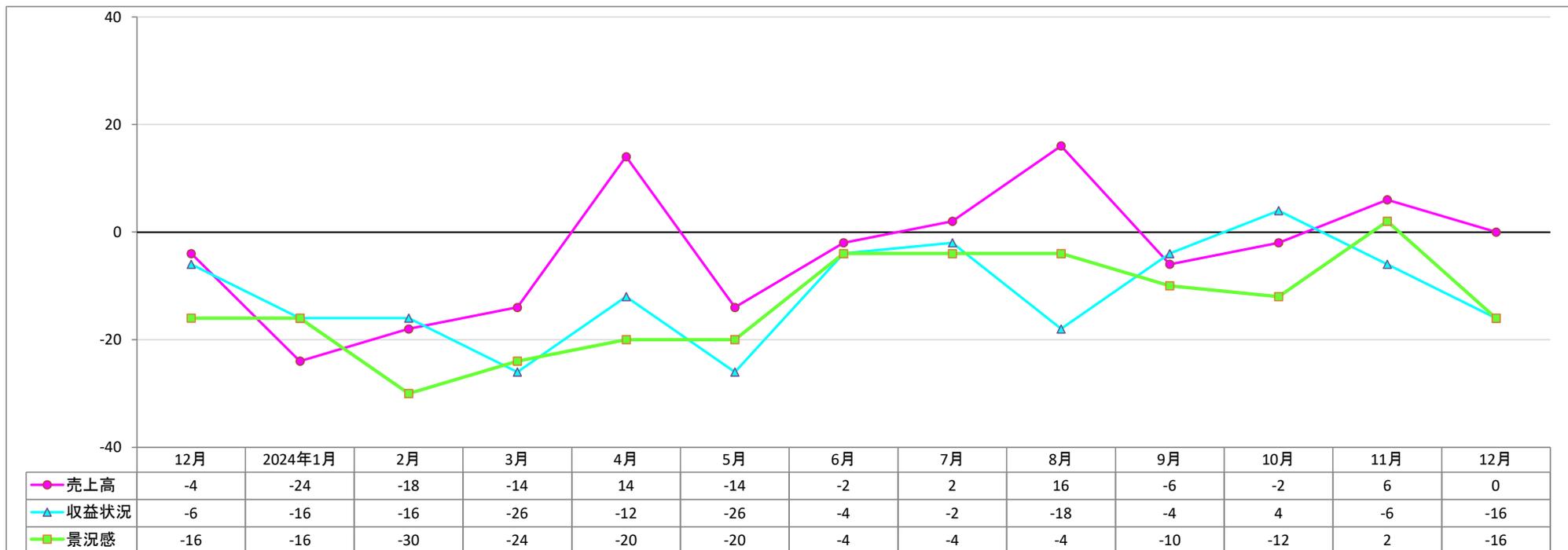
※( (良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



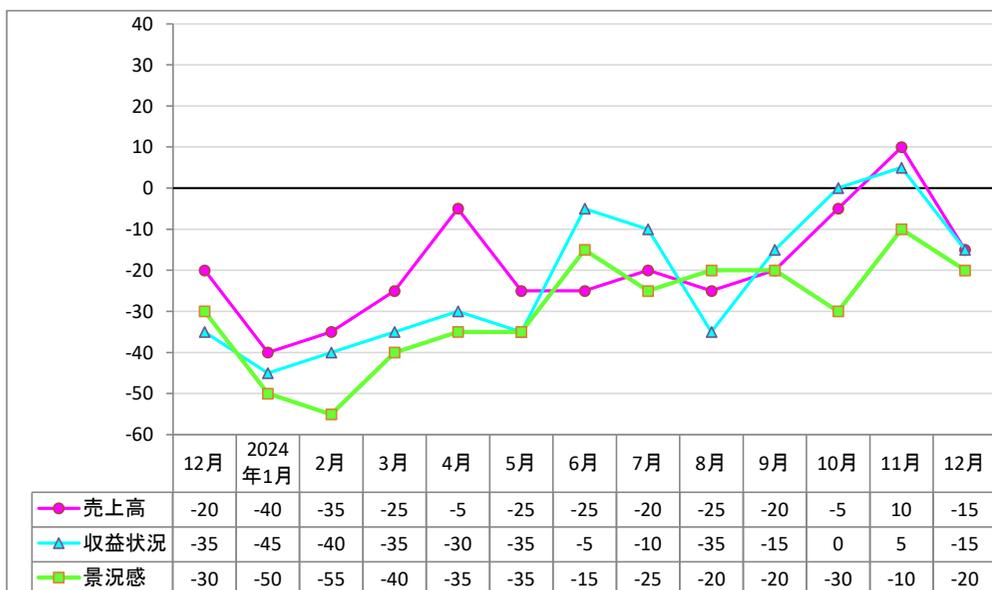
# D.I値の推移①(過去10年間) 2014年1月～2024年12月



# D.I値の推移②(過去1年間) 2023年12月～2024年12月



## 【製造業】



## 【非製造業】

